



# 長岡京市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）

アース  
～ 持続可能な未来プラン ～

平成23年度進捗報告書

長岡京市



## はじめに

長岡京市では、平成21年4月に“古<sup>いにしえ</sup>の都”から“環境の都”をめざして、「長岡京市環境都市宣言」を行いました。宣言では「真に環境都市として誇れるまちづくり」をめざし、市民、企業、諸団体と行政が協働して取組みを進めていくこととしています。

その取組みのひとつとして、平成23年3月に市域全体の温室効果ガス削減計画となる「長岡京市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）～ 持続可能な未来（アース）プラン ～」を策定しました。

この計画では2030年度（平成42年度）までを計画期間とし、市内の温室効果ガスの排出量を1990年度比で40%削減することを目標としています。

奇しくも計画を策定した平成23年の3月11日に東日本大震災に見舞われ、福島第一原子力発電所の事故が起きました。これを機に日本のエネルギー政策は転換期を迎え、温暖化対策とともに、安全で安定したエネルギー源とは何かという課題への対応に迫られています。

このような状況の中、まず私たちができることは、エネルギーを少しでも無駄にしない利用の仕方、そしてライフスタイルを見直していくことです。地球温暖化は、地球規模の課題ではありますが、それぞれの家庭や事業所で、身近なところから行動していくことが求められているのです。

本報告書では、市域から排出された温室効果ガス量の報告及び計画で重点的に進めるとした「長岡京市の8つの取組み」に対する市の取組みについて報告、評価を行っています。評価の特徴として、温室効果ガスの排出量の算出には、できるだけ本市固有の数値を用いるとともに、府や国の統計数値を按分するなどして身近な行動を反映できるようにしています。

世界や日本から見れば小さな本市の取組みですが、今後とも長岡京市地球温暖化対策実行計画推進協議会の委員の皆さまをはじめ、多くの市民、企業、諸団体の皆さまのご意見やご提案を反映し、温暖化対策を進めてまいります。

# もくじ

●報告書について	1
●長岡京市域の温室効果ガスの排出量の現況	
1. 温室効果ガス総排出量の推移（排出係数変動）	2
2. 温室効果ガス総排出量の推移（参考補正值）	3
3. 「長岡京市8つの取組み進捗管理表」の結果	4
4. 平成23年度「長岡京市8つの取組み」進捗状況まとめ	10
●長岡京市地球温暖化対策実行計画推進協議会の評価・意見および市の考え方	11
●資料	15



## 報告書について

### 進捗管理表の目的

本進捗管理表は、本市域の温室効果ガス削減目標の中でも、行政においてその取組みを推進または支援するための施策について進行状況を把握するためのものです。

管理表では、温暖化対策の主要項目の中でも特に CO<sub>2</sub> 排出量だけでなく、増加傾向にある家庭での電気とガスのエネルギー使用量を共通指標とし、その削減目標の達成を目指します。

また 8 つの取組みそれぞれの進捗状況を「対策目標」としてあわせて評価します。この「対策目標」については、必要があればより実質的な判断が可能なものに見直すこととします。

### 進捗管理表の目標及び確認年度

2011（平成 23）年度から 3 年ごとに作成。2020 年度で計画の中間見直し。本報告書の評価の対象年度は、「温暖化対策共通指標」が 2010（H22）年度のもの、「8 つの取組み」の評価は、2011（H23）年度分のものとなります。

温室効果ガスの排出量を算出する際の統計数値が 2 年後の 1 2 月頃にしか出そろわないため、1 年のずれが生じています。

	2009 H21	2010 H22	2011 H23	2012 H24	2013 H25	2014 H26	2015 H27	2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 H31	2020 H32
温暖化共通指標の目標期間	→		→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
8 つの取組み目標期間			→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
達成確認			→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
新管理表作成				→	→			→				→

### 進捗管理表の見方・評価・見直し

対策目標	現状値	各年度の目標値 (目標状況)	実行部門	進捗状況	当該年度の進捗内容
目標の内容	・ 22 年度現在の現状	・ 目標値 ・ 数値で示せない場合は、目指すべき状況	主管する課等	年度終了後に目標に対して○△×で評価 ○＝目標達成 △＝目標の 7 割を超える ×＝目標の 7 割以下 (数値目標がない項目は、おおむね 7 割を基準とする。)	進捗内容を文章で記載。 (例：●月■日・・・で省エネ診断実施。)

・事業の終了などに伴い、見直し

・「-」は、新規事業につき実績なし

・3年に1度見直し  
・「-」は、事業継続につき検討中

# 長岡京市域の温室効果ガス排出量の現況

## 1. 温室効果ガス総排出量の推移（排出係数変動）

長岡京市の2010年度（平成22年度）の温室効果ガス排出量の速報値は、391千 t-CO<sub>2</sub>で、基準年度1990年度（平成2年度）比で、16.0%削減されましたが、前年に比べ増加しています。これは、産業部門で2006年度から大幅に削減されてきた排出量が、2010年度には経済の復調による製造出荷額の増加と記録的猛暑により、前年度比46%増となったことによります。家庭でも同様に猛暑の影響で電力消費量が大幅に増加したため、排出量も11%増加しました。あわせていずれの部門においても、電気の排出係数が上昇した影響が出ています。

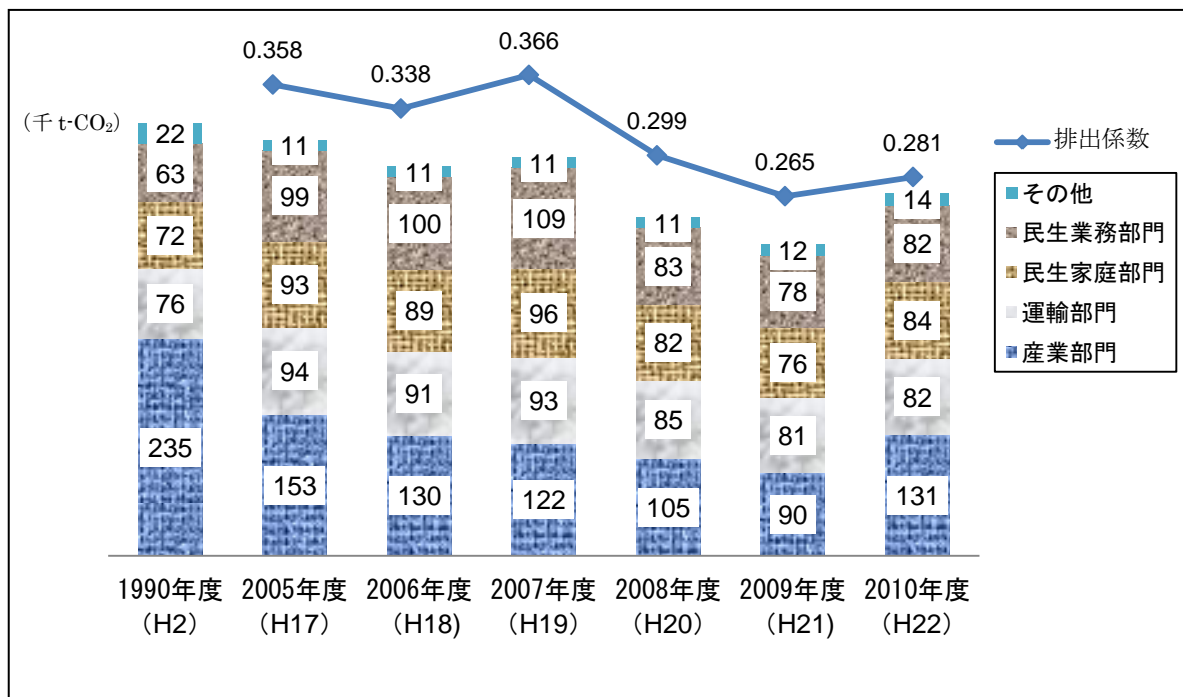
(千 t-CO<sub>2</sub>)

部門／年度	1990 (H2)	2005 (H17)	2006 (H18)	2007 (H19)	2008 (H20)	2009 (H21)	2010 (H22)
産業部門	235	153	130	122	105	90	131
運輸部門	76	94	91	93	85	81	82
民生家庭部門	72	93	89	96	82	76	84
民生業務部門	63	99	100	109	83	78	82
その他	22	11	11	11	11	12	14
合計	468	450	421	431	366	337	393
基準年度比	0%	-3.8%	-10.0%	-7.9%	-21.8%	-28.0%	-16.0%

※速報値＝統計数値がすべて出ていない状態の算出量。12月頃に2年前の数値が出そろいますが、大勢に影響はないので、速報値として公表します。

速報値

図1 長岡京市域の温室効果ガス総排出量と排出係数の推移



## 2. 温室効果ガス総排出量の推移（参考補正值）

排出係数に左右されずに排出量を比較するため、長岡京市の温室効果ガス排出量にかかる「排出係数」を2007年度（現況年度）に固定した数値を算出しています。

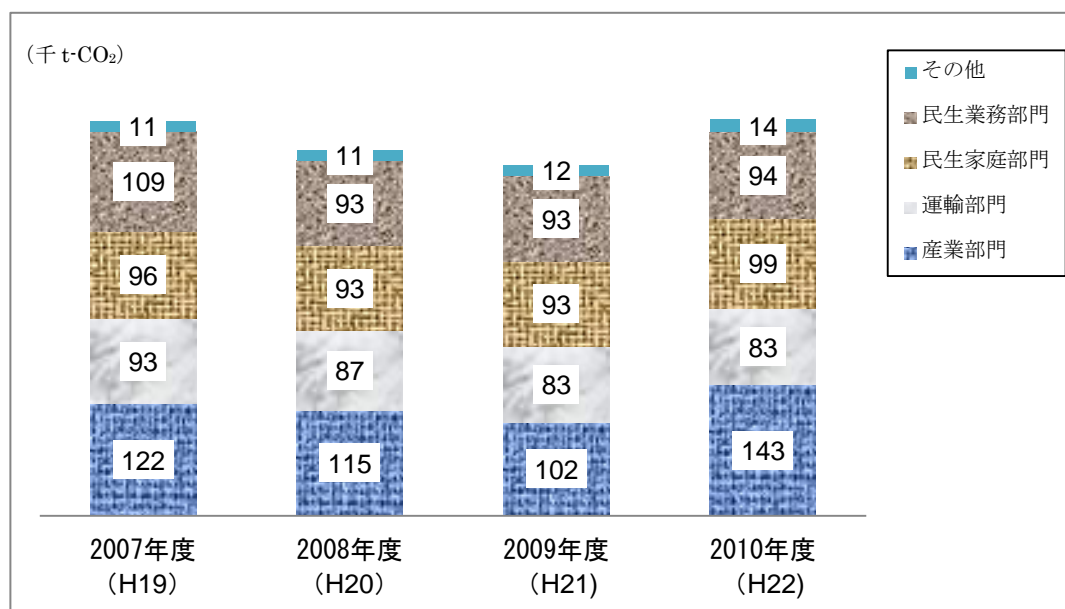
このデータを見ると、排出係数の低減による削減量が加味されないため、排出係数変動の場合と比べ削減幅が小さくなっており、原子力発電所の稼働率が高かった2008年度から2010年度ではそれぞれ7%、9.8%、8.5%の差が出ています。

部門／年度	1990 (H2)	2007 (H19)	2008 (H20)	2009 (H21)	2010 (H22)
産業部門	235	122	115	102	143
運輸部門	76	93	87	83	83
民生家庭部門	72	96	93	93	99
民生業務部門	63	109	93	93	94
その他	22	11	11	12	14
合計	468	431	399	383	433
基準年度比	0%	-7.9%	-14.8%	-18.2%	-7.5%

※排出量算定に必要な基礎データがある2007年度からの推移になります。

速報値

図2 長岡京市域の温室効果ガス総排出量（2007年度に排出係数固定）





### 3. 「長岡京市8つの取り組み進捗管理表」の結果

#### 温暖化対策共通指標

目標指標	H20年度 現状値	21年度 目標	実行部門	進捗 状況	進捗内容	H23年度 最終目標
市民1人あたりの CO <sub>2</sub> 排出量(図3) (民生家庭部門CO <sub>2</sub> 排出量/人口)	1,036.5kg	1,160kg以下	環境政策監	○	956.6kgCO <sub>2</sub> /人 (7.7%減)	1,100kg 以下
市民1人あたりの電気使用量 (図4)(電灯使用量/人口)	2,082kWh	前年度比 使用量減	環境政策監	○	2,047kWh/人 (1.7%減)	前年度比 使用量減
市民1人あたりの都市ガス使用 量(図5)(都市ガス使用量/人口)	152.0 m <sup>3</sup>	前年度比 使用量減	環境政策監	△	152.4 m <sup>3</sup> (0.26%増)	前年度比 使用量減

\*温室効果ガス排出量の確定値となる2年前の数値で報告しています。

図3 市民1人あたりのCO<sub>2</sub>排出量

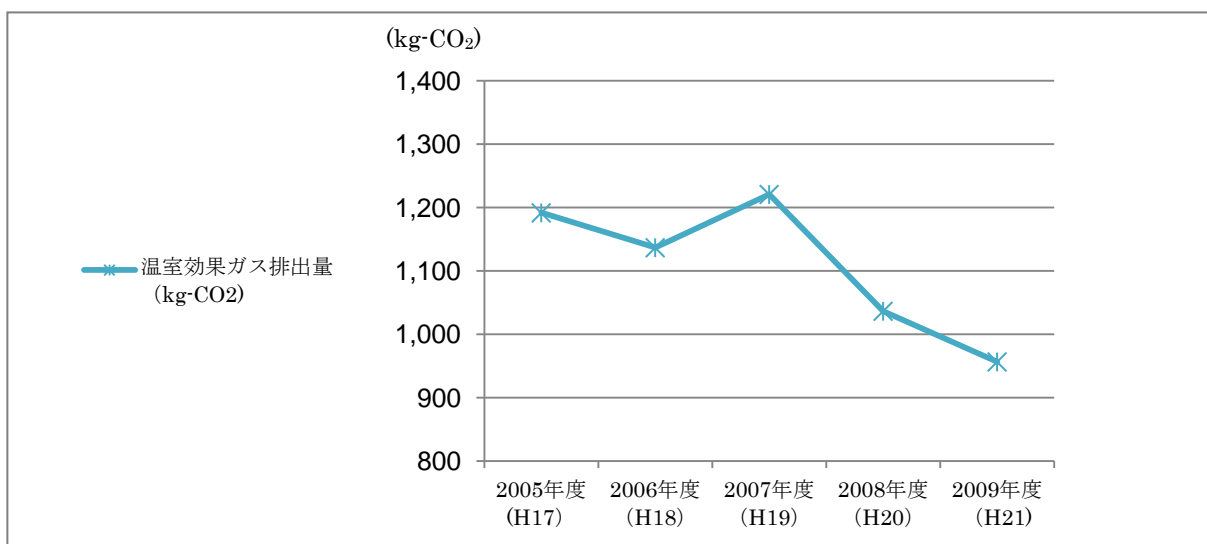


図4 市民1人あたりの電気使用量

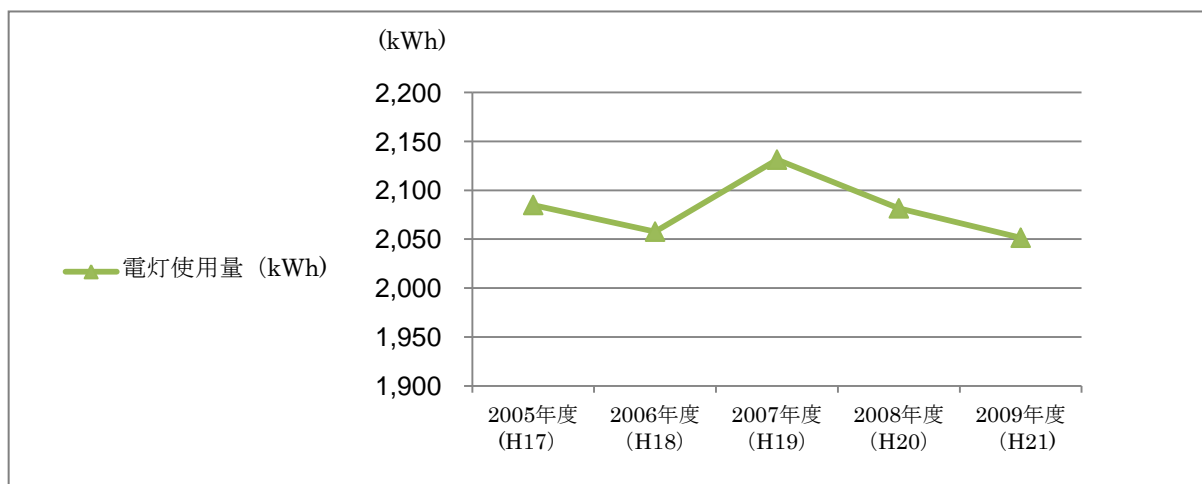
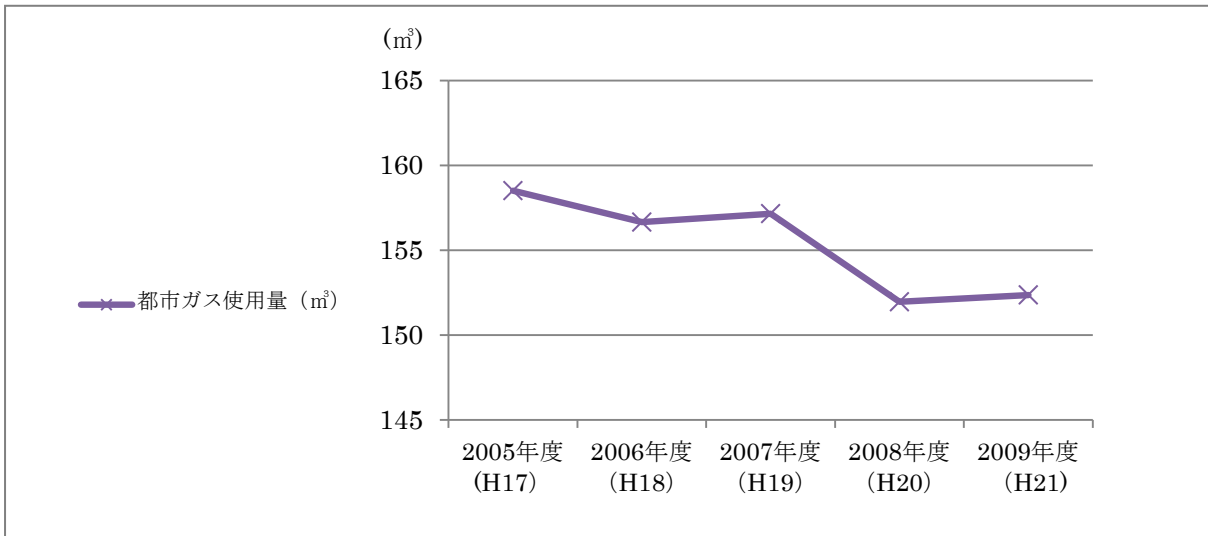


図5 市民 1 人あたりの都市ガス使用量



**取組み 1 機器や建築物等の省エネ・省 CO<sub>2</sub>化**

主要課題	施策の方向性
1. 設備機器や建築物などの基礎エネルギー使用の低減	1. 省エネ住宅等の情報提供 2. 省エネ機器の比較の啓発
2. ビルや家庭でのエネルギー使用量の見える化	1. 見える化機器設置の普及拡大

目標指標	H22 年度 現状値	H23 年度 目標	実行部門	進捗 状況	H23 年度の進捗内容	H25 最終目標
省エネ住宅の情報提供回数	啓発 1 回	啓発 1 回	環境政策監	○	1 回 (12/3 環境フェアにてパネル等展示)	啓発 1 回
省エネラベルの情報提供回数	—	啓発 1 回	環境政策監	×	0 回 (情報提供方法を検討中。24 年度実施予定)	啓発 2 回
BEMS・HEMS(※)の情報提供回数	—	情報提供 1 回	環境政策監	×	0 回 (情報提供方法を検討中。24 年度実施予定)	情報提供 2 回

※各電気やガス系統に測量機器を設置し、建物の使用エネルギーや室内環境を把握・分析して、最適なエネルギー制を行うためのシステム。

## 取組み2 省エネ行動・エコライフの実践

主要課題	施策の方向性
1. 省エネ行動・エコライフの継続	1. 省エネ行動のモチベーション維持・支援 2. 省エネ行動による効果の周知・情報提供
2. 事業所・家庭での省エネ行動手法の獲得	1. 家庭での省エネ手法の普及 2. EMSの導入など環境に配慮された事務の普及

目標指標	H22年度 現状値	H23年度 目標	実行部門	進捗 状況	H23年度の進捗内容	H25 最終目標
「うちエコ診断」「省エネ診断」実施回数	—	2回	環境政策監	○	2回(9/9・市役所・34名) (2/7・イズミヤ長岡店・16名)	開催日・開催回数・参加者数
エコストアの活用	エコストア 制度の整理	エコストア 制度の整理	環境業務課	○	エコストア要綱の見直し	検討状況・実施状況
EMS(※)取得補助件数	—	補助金予算 計上	環境政策監	○	25万円予算計上(5件分)	取得補助件数

※環境マネジメントシステムの略

## 取組み3 循環型社会の推進

主要課題	施策の方向性
1. 資源物のリサイクルの推進	1. 各家庭での分別収集の推進
2. 間伐材資源の循環システムの確立	1. 間伐材の利活用の推進

目標指標	H22年度 現状値	H23年度 目標	実行部門	進捗 状況	H23年度の進捗内容	H25 最終目標
資源物の再生利用量(※)	3,809t	3,742t	環境業務課	○	3,859t	3,932t
間伐材の利活用による里山循環システムの構築	—	「公共建築物等における長岡京市産材の利用促進に関する基本方針」作成	全課	○	基本方針の作成	長岡京市産材を利用した公共建築物等の検討・利用
薪ストーブの利用啓発回数・導入状況	神足小学校、西山グリーンハウスに薪ストーブ設置	①啓発1回	環境政策監 農林振興課	○	①薪割り大会(6月5日)・神足小学校薪ストーブ火入れ式実施(図6)・低炭素杯2011全国大会出場 ②導入検討なし	①啓発2回 ②公共施設に導入1件

※集団回収している古紙・古繊維の回収量と乙訓環境衛生組合の再生利用量の合算。

図6 神足小学校 薪ストーブ火入れ式



**取組み 4 低公害車の利用**

主要課題	施策の方向性
1. 低公害車の普及	1. 電気自動車や低公害車の率先導入による啓発

目標指標	H22 年度 現状値	H23 年度 目標	実行部門	進捗 状況	H23 年度の進捗内容	H25 最終目標
公用車の低公害車台数(リース含む)	30/106 台	30/105 台	公用車 保有課	○	30/105 台	33 台 / 106 台
低公害車の情報提供回数	—	啓発 1 回	環境政策監	○	のぼりの掲出 1 回 (12/12~12/16)	啓発 1 回

**取組み 5 自転車や公共交通機関等の利用**

主要課題	施策の方向性
1. 自家用自動車の利用低減	1. コミュニティバスの利便性向上による利用促進 2. パークアンドライドの推進

目標指標	H22 年度 現状値	H23 年度 目標	実行部門	進捗 状況	H23 年度の進捗内容	H25 最終目標
コミュニティバス 1 台あたりの利用者数	11.2 人	前年度比 利用者増	交通対策課	○	1 便当たりのはっぴいバス利用者数 11.8 人	—
パークアンドライド駐車場の利用台数	32,089 台 (総台数からの比率 8.5%)	前年度比 利用者増	交通対策課 まちづくり 推進室	△	パークアンドライド駐車場利用台数 31,751 台 (長岡京市営長岡京駅西 駐車場)	前年度比 利用者増

## 取組み6 再生可能エネルギーの導入

主要課題	施策の方向性
1. 再生可能エネルギーの導入推進	1. 太陽光発電システム導入支援 2. 再生可能エネルギーに関する情報の周知

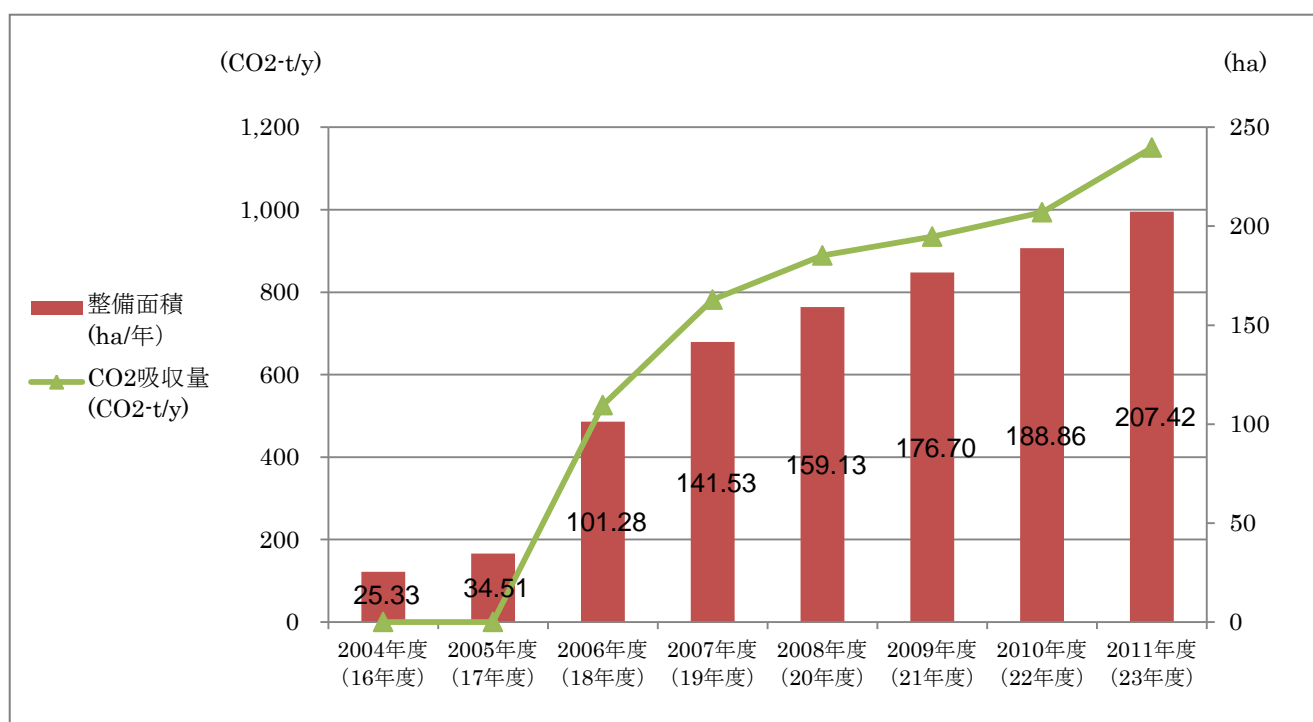
目標指標	H22年度 現状値	H23年度 目標	実行部門	進捗 状況	H23年度の進捗内容	H25 最終目標
太陽光システム設置助成 件数	22件	20件	環境政策監	○	21件（申請件数66件）	50件
公共施設への太陽光発電 システム設置件数 （学校など）	①0件 ②3件 （長岡第七 小・第九 小・第十小）	設置箇所の ①検討件数 ②設置件数 の増加	施設管理課	○	①2件（神足小・長岡第 五小） H25～27年度工事予定 ②なし	設置箇所の① 検討件数②設 置件数 の増加

## 取組み7 緑化の推進や森林、農地の保全

主要課題	施策の方向性
1. 緑化の推進	1. 植樹等による緑地の拡大 2. 緑化・緑の保全活動に対する支援
2. 森林の保全	1. 西山森林整備面積の拡大による健全な森の育成
3. 農地の維持・保全	1. 生産緑地の保全による農地の保全

目標指標	H22年度 現状値	H23年度 目標	実行部門	進捗 状況	H23年度の進捗内容	H25 最終目標
緑被面積	2,200㎡	200㎡増加 ／年度	公園緑地課	○	2,469㎡	200㎡増加 ／年度
西山森林整備面積	188.86ha	整備面積 10ha以上 ／年度	農林振興課	○	207.42ha(図7)	整備面積 10ha以上 ／年度
生産緑地面積	70.48ha	維持保全	都市計画課	△	69.85ha(H23.12月末) (0.9%減)	維持保全

図7 西山森林整備面積とCO<sub>2</sub>吸収量(累積値)



※森林整備によるCO<sub>2</sub>吸収量は整備した樹木の種類により異なるため、整備面積に比例しません。

### 取組み8 環境意識の向上

主要課題	施策の方向性
1. 環境問題に対する意識の向上	1. 体験を通じた環境意識の醸成 2. 環境学習の機会の提供 3. 環境活動に関する情報共有の場の提供

目標指標	H22年度 現状値	H23年度 目標	実行部門	進捗 状況	H23年度の進捗内容	H25 最終目標
環境体験学習会の開催 件数	西山ファミ リリー探 検隊5回 実施	5回実施	環境政策 監	○	5回(5/8・6/26・7/31・ 10/3・2/5)計306名	4回実施
スターウォッチング・ バードウォッチングな どの自然観察会の開催	計3回	計3回	環境政策 監	○	・スターウォッチング2 回(10/8・3/10)計81名 ・バードウォッチング (3/3)24名	計3回
環境フェアへの参加団 体数	34団体	30団体以 上	環境政策 監	○	35団体	30団体以上

#### 4. 平成23年度「長岡京市8つの取組み」進捗状況まとめ

平成23年度で報告した進捗状況について、「温暖化対策共通指標」は、「平成21年度」分の確定値となっています。平成21年度は、夏に高温となった時期が少なかったことにより、電気の使用量が減少、また冬の低温によりガスの使用量が微増しています。

夏が高温になる際は、エアコン等の使用により電気使用量が増加し、冬が低温となると給湯器の使用等によりガスの使用量が増加する傾向があります。

各年度の電気、ガスの使用量、温室効果ガスの排出量をみると、夏、冬の気候に左右されることが分かります。

この時期の電気、ガス機器の使用量の効率を上げることが、特に民生家庭部門の排出量減少に寄与すると考えられることから、今後その対策を重点的に進めることが必要です。

「長岡京市の8つの取組み」については、おもに市が市民等の行動を啓発、推進する取組みの進捗状況の報告となります。

全24項目中、19項目については達成できていますが、2項目は達成できず、3項目は目標の7割程度の達成という結果になりました。

達成できなかったもののうち、省エネラベルの啓発、BEMS・HEMSについての情報提供ができませんでした。広報での周知、環境フェアなどのイベントを通じた情報提供、啓発など、より市民に伝わりやすい方法を検討し、実施します。

パークアンドライド駐車場の利用者数は前年度に比べ微減しました。最近では、京都市内のデパートと提携し、駐車場の割引を行ったり、春と秋の観光シーズンにも広報を実施しています。今後も市民に利用されやすい仕組みを導入し、啓発するなどして、利用者数を増やしていきます。

生産緑地面積は、今後も減少していくことが予想されていますが、できるだけ農業を続ける人を維持し、市街地の緑を維持していけるよう農業振興サイドからの取組みも進めていきます。

次期進捗管理表の見直しは平成26年度からとなりますが、この間に、どのような取組みが効果的であるかなどの調査研究を進め、改訂時には現在の項目に追加して、より具体的な目標指標を重点的に示していくことも考えられます。また、「市全体で取組む」という視点から、本推進協議会や市民、諸団体とともに取組む目標を掲げることについても検討していくことが必要です。

# 長岡京市地球温暖化対策実行計画推進協議会の評価・意見および市の考え方

長岡京市には、本計画を策定した評価をする機関として、「長岡京市地球温暖化対策実行計画推進協議会」を設置しています。この協議会には、市民や事業者、諸団体と行政が加わっており、PDCAサイクル（計画し、実行し、チェックし、改善する仕組み）を運用しています。

本計画の取組み主体は行政ですが、それを行政自身で評価するのではなく、多様な主体が加わって評価します。これにより行政以外の視点でチェックをし、取組みを改善していくことができます。この章では、協議会から評価と意見をまとめるとともに、市の考え方について報告します。

## 1. 温暖化共通指標について

協議会意見
温暖化共通指標に電気とガスだけあがっているが、水の使用もCO <sub>2</sub> 排出量の増加の要因になっている。指標として水の使用量を加えられないか。
市の考え方
水は、浄水し、供給する際に多くの電気を使用するため、無駄遣いしないことはとても大切です。しかし、浄水場の電気の使用量は市の施設として把握しているほか、今年度策定予定の「長岡京市第2期環境基本計画」に取り上げる予定ですので、重ねて加えることは差し控えたいと考えます。

## 2. 取組み5「自転車や公共交通機関等の利用」について

協議会意見
パークアンドライドの駐車台数とはどこの駐車場の、どのような車をカウントしているのか。
市の考え方
現在はJR長岡京駅前の市営駐車場における、「終日駐車台数」「定期利用台数」をカウントしています。これらは、駅前まで自動車に来てそこから電車を利用していると考えられることから、パークアンドライド利用者数と捉えているものです。今後は、新たにできる阪急「西山天王山駅」周辺に整備される市営駐車場についても対象になる予定です。

## 3. 取組み7「緑化の推進や森林、農地の保全」について

協議会意見
生産緑地面積の目標値が維持保全となっており、この1年でも減少している。もっと増やすような方策を考えられないか。減っていくならば、目標にはならないのではないか。



市の考え方
生産緑地は、生産緑地法に基づき指定された農地です。生産緑地が多いのは、本市の特色でもあり、農林振興課でも農家の方や農業の支援や「農地銀行」という仕組みをつくるなどして保全に努めています。しかし高齢などのやむをえない事情で農業に従事できず、農地が減ってきているのが現状です。また現在の都市計画では新たに生産緑地の指定を行うことはなく、増加目標は難しいため次回の見直しの際に目標の変更を検討したいと考えます。

#### 4. 啓発のあり方について

協議会意見
一部の人だけが頑張るのではなく、一般の人にも取組んでもらえるよう啓発が大切。また個別の取り組みだけでなく、広く取り組むことが必要。たとえば自治会などのグループでの削減努力に対するインセンティブなどを考えていけないか。
市の考え方
自治会等のグループを通じて多くの人に取り組んでいただきやすくなることは考えられます。他の自治体の取り組みなども参考にしながら、より「お得感」のある啓発を進めていきたいと思います。

協議会意見
省エネ住宅やHEMS・BEMSの行政からの情報提供は、実際に家を売ったり設計したりする人に行き、その人たちがお客さんに普及していくという形が効果的ではないか。商工観光課など他部署とも連携し、ターゲットを絞って事業者等にも情報提供をしたほうがよい。
市の考え方
今後、市の商工会とも連携しながら、情報提供をしていきたいと考えます。情報提供内容や手法について、よりよい方法を検討していきます。

協議会意見
個々にながらんでいるが、成果が見えないとだんだん楽しくなくなってくる。電気の見える化の機器を導入して、「どれだけ電気を使っているか」「お金にするとどれだけ得をするか」など、特に子どもたちにデモンストレーション授業などをすれば、伝わりやすいのではないか。また機器を家庭にも貸し出すようなことをやってはどうか。
市の考え方
成果の見える化および子どもたちを通じたエネルギー教育は、取組みを推進するうえで非常に重要と考えています。機器の導入については今後、有効な利用の仕方を精査したうえで検討します。

## 5. 庁内における調整のあり方について

協議会意見
この計画に限らず、庁内で環境の取り組みを評価する委員会のようなものをつくることを提言したい。現在のやり方で各部署から報告書の提出をもらうだけでは、是正や改善に動きづらい。トップも交えた組織をつくるべき。進捗管理表を見ていると、環境部門のやりやすい目標ばかりあがっていて、全庁的に取組んでいるという感じではないため、そういったところについても見直しをしていかないといけないと思う。
市の考え方
現在、各部署にはそれぞれの環境の取り組みについて報告を提出してもらうとともにヒアリングを行うことにより状況の把握に努めています。ご提言のような庁内の委員会組織については、その機能やあり方について協議し、設置を検討します。

協議会意見
市の広報で分別を啓発する記事が載っていたが、CO <sub>2</sub> の排出量に関する記載はなかった。分別を推進し、温暖化対策を進めるということをうたっているのですが、広報などでは庁内で意見を統一して書いてほしい。
市の考え方
担当課と連携し、統一した啓発や情報提供ができるように注意します。

## 6. 報告書について

協議会意見
報告内容によって、年度が違うのはややこしい。また前年度に取り組んだことが反映された排出量が出れば、緊迫感があると思う。国の統計値の発表が遅いとのことだが、長岡京市独自で数値を出すなどの工夫はできないか。
市の考え方
国が出しているような温室効果ガスの排出量の速報値を出すためには、主要な統計値や排出係数が公表または決定される必要があります。例年その公表は、次年度の12月頃になります。また、すべての統計値が公表されるのは2年後の12月頃となっており、前年度の排出量が即時に公表できない状況です。 しかし独自の数値を使うと、その後、公表される数値により、結果が変わることとなり、結局、前年度の取り組みの反映ができていないこととなります。そのため、独自の数値の設定については避けたいと考えます。 ただ、年度のずれによる報告書の見にくさについては、注釈を入れることや説明を加えることによりできるだけ解消していきます。

協議会意見
報告書の目標中には、「どこで」「なにが」「どれくらい」といったことが書ききれていないところが多い。たとえば「公共施設」とは、どこを指すのかなど例示的に書いたほうがわかりやすい。
市の考え方
初めて見る方にも分かりやすいよう進捗管理表や進捗報告書の表記を工夫します。

協議会意見
いくつかの項目で当初から平成 25 年度の最終目標を達成しているところがある。わざわざ低い目標を立てずに、見直してはどうか。
市の考え方
<p>目標を達成している項目は、2つあり、1人あたりのCO<sub>2</sub>排出量と資源物の再生利用量の2項目です。</p> <p>CO<sub>2</sub>排出量は、2020年度までに25%、2030年度までに40%という削減目標から按分しています。また、資源物の再生利用量は、一般廃棄物処理基本計画の目標値となっているため、進捗管理表で目標を変更することは難しいと考えています。</p>

**資料****温室効果ガス排出量の算出のために使用している主な数値**

温室効果ガス排出量の算出にあたっては、下記のような主要な数値を市独自の統計または府や国の統計から、把握し算定のために利用しています。

本市では、さまざまな統計値から排出量を算定し、取組みによる成果が見えやすいように工夫しています。

部門	統計値
共通	長岡京市人口
	長岡京市世帯数
	市内の電灯消費量
	市内の電力消費量
	市内の都市ガス消費量
	電気、ガスなど各種エネルギーの排出係数
	灯油、重油など各種燃料の発熱量・排出係数
産業部門	農林水産業の市町村内総生産
	建設業の市町村内総生産
	製造出荷額
	市内大規模事業所アンケート
運輸部門	燃料消費量
	乗用車・貨物車・乗合・軽自動車保有台数
	燃料別保有台数
	鉄道の電力消費量
	都市ガス消費量
	L P G消費量
	灯油消費量
民生業務部門	第3次産業市町村内総生産
民生家庭部門	L P G購入量
	灯油購入量
その他	国の温室効果ガス排出量
	Fガス社会ストック量
	P P S 電力販売量

